

学力向上フロンティアスクール中間報告書

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 島根県 |
|-------|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|-----------|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 加茂町立加茂中学校 | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 | 18 |
| 生徒数 | 61 | 71 | 57 | 3 | 192 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|-------------------------------------|
| 確かな学力をもち、ひととの関わりの中で、ともに高まろうとする生徒の育成 |
|-------------------------------------|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1, 2年・国語 実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。 ・ 全学年・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・ 全学年・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・ 1, 2年・保健体育 実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。 |
|--|

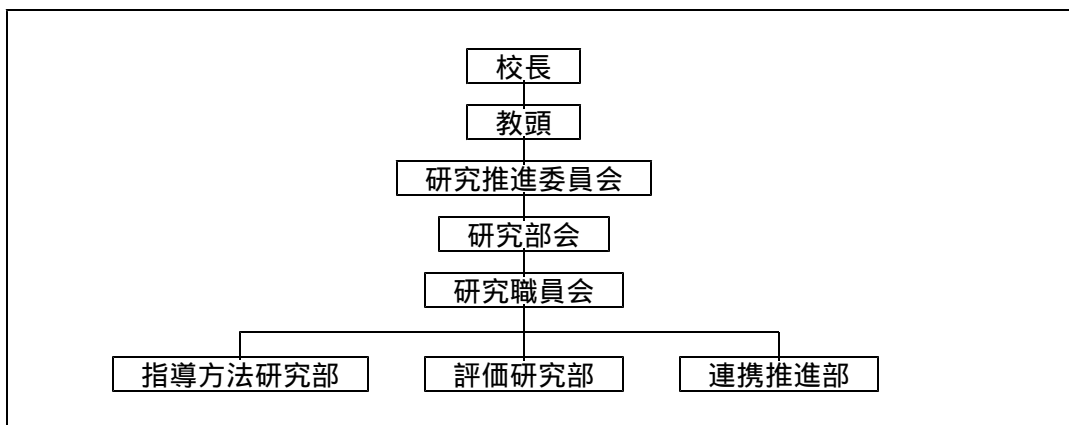
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ 生徒一人一人の実態に応じた指導を充実させるため、特に少人数指導、TTを中心とした指導方法の工夫改善を図る。</p> <p>研究の見通し 実践研究計画立案 実践研究内容、方法の年間計画作成 評価方法の検討 実践研究推進 実践の評価と第1年次のまとめ</p> <p>研究の内容・方法 ア 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための学習教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科における教材開発 ・ 少人数指導、TTのための教材開発 イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導、TTを生かす指導法の研究 ・ 選択教科における外部講師の活用 ウ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価、相互評価等多面的な評価 ・ 評価規準の再検討と活用 エ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行実践事例の研修 ・ 年間指導計画の検討 ・ 基礎学力を育てる自主学習、補充学習の時間の設定 </p> |
|--------|--|

| |
|--|
| <p>テーマ 生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を一層充実させる。</p> |
|--|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>研究の見通し 第1年次の研究成果や課題をふまえた実践内容・方法の修正 第2年次の実践研究計画立案 実践研究推進 実践の評価と第2年次のまとめ</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための学習教材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における教材開発 ・少人数指導、TTのための教材開発 <p>イ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導、TTを生かす指導法の研究 ・選択教科における外部講師の活用 <p>ウ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価等多面的な評価 ・評価規準の再検討と活用 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の普及、情報発信 ・基礎学力を育てる自主学習、補充学習の時間の設定 |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

少人数で指導したことにより生徒の実態が把握しやすくなり、個々の生徒に対する指導回数も増えた。

数学では、単元の前半で基礎・基本が習得できるようTT指導を行い、後半では、テスト成績、生徒の自己評価や希望により、クラスを2つに分け、習熟度別の少人数授業を行った。発展コースの生徒には問題を多く与え、計算が確実にでき、多様な解き方を発見させるよう努めた結果、教師のねらいがほぼ達成された。基本コースの生徒には、基本的な問題を与えると同時に、ルートランプなど数学的な活動場面を与えた結果、意欲的に取り組むようになった。

学期はじめに評価用紙を配布し、評価項目を示した。少人数指導をおこなうことで毎時間の評価が短時間で全員についてでき、声かけをしたり、シールを貼ることで個々の意欲を喚起、向上させることができた。また、自己評価についても到達度をきめ細かく把握できた。

2. 今後の課題

習熟度別編成の授業が適している単元、単純分割編成の授業が適している単元、多くの考え方を取り入れて授業を進めていった方が効果的な単元など、それぞれの単元の内容を吟味することによって、より効果的な少人数指導ができるようにすること。

理解に時間がかかる生徒への指導。

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査
1年生対象、4月実施
定期テスト(年間5回)
学期ごとの指導の効果などを確かめる。
到達度テスト(年間3回～6回)
小テスト
課題やプリント学習の効果などをテスト結果により確かめる。
学習に関するアンケート
生徒の学習に対する意識について調査する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

保護者への学力向上フロンティアスクールの趣旨説明
保護者への授業公開
(平成15年5月17日・11月1日・2月6日)
公開授業の実施
(平成15年6月24日・7月8日、郡内教員参加)
島根県教育研究大会
(平成15年10月28日、県内教員参加、研究成果の発表)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無